

図書館の常識をぶっ壊せ！

C1240090 安達光亮

テーマ これまで以上に利用したくなるような図書館を提案する。

共感(インタビュー)

現在の図書館のニーズについて調べるために実際図書館を利用している友達と利用していない友達にインタビューを行った。※利用するかしないかで、顕在的・潜在的ニーズが一致する可能性があるためと、これまで以上に利用したくなるということは、現在利用していない生徒のニーズにも答える必要があるため、立場が反対の二人にインタビューを行う。

- ①なぜ図書館を利用するのか・利用しないのか。
- ②図書館のメリット・デメリット。

1, 利用している(同じドミトリーリーの友達)

- ①周りが静かで、勉強している人が多いから、集中できる。
- ②集中して取り組むことが出来る・少し窮屈でストレスが溜まるが、勉強する場所だから気にしていない。

2, 利用していない(高校からの友達)

- ①静かすぎて集中できない。一人用の机で勉強したい。
- ②本が近くにある・ 静かにしなくてはいけないというルール、お約束みたいなものがある。

課題定義

1のインタビューで、「少し窮屈でストレスが溜まるが、勉強する場所だから気にしていない。」に矛盾が生じ、着目した。2のインタビューで「静かにしなくてはいけないというルール、お約束みたいなものがある。」から、静かにしなくてはいけないというルールや約束によって、窮屈になり、ストレスが溜まっているのではないかと考えた。うるさくしてもよいという解放感が必要だと考えた。よって、潜在的ニーズは、「開放的な空間で勉強したい」とし、「開放的な勉強スペースを作るためには」と課題を定義した。

コンセプト

「図書館の常識を壊して、一人でなんでもできちゃう勉強スペース」

私語や飲食は可能にする。勉強するのは一人がいいと言う学生が多いことから、複数人の貸し出しは禁止する。あくまでも、一人で勉強したい人向けである。

プロダクト

静かに勉強する図書館内、グループで私語ができるグループ学習室に加え、新しいニーズに応えた一人専用学習室である。図書館の一室に一人用の机で区切られている席が20席配置されている部屋を作る。防音室を取り入れ、図書館内で静かに勉強したい人に配慮する。利用時間は図書館と同じにする。

期待される効果

- ・グループ学習室とは異なり、一人専用なので、一人でも借りやすい。
- ・図書館の本で調べることができながらも、私語や飲食ができる。
- ・静かにしなくてはいけないというルールに縛られず、開放感のあるスペースで学習することができる。